

国際貢献で知った 食のお国柄

Thanks to International Volunteers, I Learned
the Importance of Food

小峰一雄

Kazuo KOMINE

キーワード：国際貢献、ボランティア活動、
栄養療法



(こみね・かずお)

ICDフェロー
医療法人小峰歯科医院

私は2005年にICDに入会にさせていただき、間もなく在籍20年になります。入会直後から色々な委員会に参加させていただき、ICDの素晴らしさを体験してきました。お陰様で大勢のフェローの先生方と交流を持つことができ、そんな中で国際貢献されているフェローに出会うことができました。私も若い頃から国際貢献をしたいと夢見ていたのです。彼らのお陰で実現のエネルギーをいただき、数年後に実現することができたのでした。国際貢献を開始後にICDメンバーをお誘いしてラオスで国際ボランティア活動したことがあります。その際に皆さんに大変喜んでいただいたことを覚えております。現在、カンボディア、ラオス、ベトナム、ウズベキスタンで活動しております。そこで、今後もICDフェローの皆様をお誘いしたいと考えております。ぜひご協力をお願いします！

国際貢献のキッカケは、私と同様の予防歯科をしているスイスのDr. Minottiからアフリカでのカリエスの撲滅ボランティアに誘われた事でした。しかしながら、日本からアフリカは余りに遠いので、私はアジアからスタートする事にしました。そして、2012年にカンボジアヘルスサイエンス大学から招聘され、カリエス予防法について講義をさせていただきました。その後、隣国のラオスからも声がかかり、ラオスヘルスサイエンス大学の教授に拜命いただき、定期講義と地方でのボランティア活動とマスターコースの先生方への実地指導をさせていただきました。その後、日本の外務省の人間が同行してくださり、我々のボランティア活動を評価してくれたのです。以後、億単位の支援金をいただくことになり、新予防活動として当時現地には無い歯科衛生士学校を開設することになりました。予防活動には必須のスタッフなので、日本からも衛生士学校の先生方の協力を得ております。先日も次の校舎の設計と、現地ヴィエンチャン県の知事との調印をしてきました。このラオスでのボランティア活動は常時実施しておりますので、ICDフェローの先生方をお誘いしたいと思っています。

ラオスのエピソードとしては、南のカムアン県の田舎町で、その地域だけ歯周病と高血圧症等の生活習慣病だらけで子供の肥満児が極端に多くいました。最初はなぜ？ と思ったのですが、夜街に出て理由がわ



図1 水谷元会長のボランティア診療



図2 ラオスでのボランティア活動にて日本のICDメンバーと

かったのです。その町は日本人だらけだったので。近くに日本の大手企業の工場があり、日本人と同じものを食べていました。また、首都ヴィエンチャンでは日本人と同じアレルギーや便秘などの患者が増加していますが、田舎では全くいません。そこで内科医に、環境の違いとこれらの疾患の関連性を調べるように指導したのです。

続いてベトナムの国際貢献ですが、実は同ICDメンバーの和久本雅彦フェローにお誘いいただき、ホーチミン医科薬科大学で講演させていただきました。また、ベトナムの若い歯科医師等を日本へ呼び、私のクリニックで宿泊研修していただいております。

最後がウズベキスタン共和国ですが、ここはウズベキスタンの大統領の専属内科医からの依頼で日本での歯科医師の研修を引き受けました。その結果、ウズベ

キスタンのタシュケント大学から招聘が来て講義してきました。やはり、日本やアメリカの歯科とは全く異なり、私も大変勉強になりました。また、現地の歯科医師会での講演では周囲の国々からも歯科医師が参加し、現地の歯科事情の討論会も体験しました。さらに、ウズベキスタンではもう一つの任務があったのです。それは海無し国なので独特の国民病もあり、同大学医学部内科医から私の栄養学が評価され国民病の栄養療法の研究依頼があったのです。現地での食事では魚介類なしの肉食と大量の砂糖使用食だったので、この食生活では病人だらけでも仕方ないとも思っていました。この国へのお誘いはお酒好きのフェローにはイスラム教なのでお酒が飲めないのが一番辛いかも？ 今後も中東からもお話をいただいております。ぜひ、ICDの皆様のご協力をお願いしたいです。



図3 和久本フェローとホーチミン大学で



図4 タシュケント大学で研修生と記念撮影